

うつのみやこども賞だより

平成19年度 第10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

「強くてゴメンね」

令丈ヒロ子 / 作(あかね書房)



～読んだ本の感想より～

男の子の目線から書かれていて、男の子の気持ちがよく分かる本でした。

すぐに主人公の気持ちに入れた。

見た目や動作は「か弱い女の子」なのに、中身は怪力の女の子という設定がおもしろかった。

コンビニ強盗が出てきたときは、どうなっちゃうんだろうとハラハラした。シバヤスとアサ子が強盗と戦うところが、すごいと思った。

読み進めていくうちに、どんどんとまらなくなってしまった。

ハッピーエンドでよかった。

「千年の時をこえて」

沢村凜 / 作 (学習研究社)

さらっとしていて、すっきりおわるお話でした。

マコマと静枝は、千年もの時をこえているのに、会えているなんて、すごいと思った。

万葉の歌が事件の手がかりになるなんて、びっくりしました。

マコマと別れなくなかったけど、マコマのことを考えて別れた静枝はすごいと思いました。

心温まるストーリーで、別れの時は泣きそうになりました。

ちょうど国語の授業で、短歌の勉強をしたので面白かった。

「チームふたり」

吉野万里子 / 作 (学習研究社)

大地は家庭でのことや、女子部のこと、純のことなど、いろいろあって大変だったのに、よくのりこえたと思います。

初めは純とダブルスをやるのは不満だったけど、純と大地の前向きな考え方で、とても強いチームになったのだなと思った。

心が成長し、そして強くなったんだなと思った。

友情の大切さや、人の優しさがえがかれていると思った。

試合の結果が気になる。

「盗角妖伝」

廣島玲子 / 作 (岩崎書店)

源太が乙音をとりもどすために、ようかいと戦ってまで助けようと思うところがすごいと思った。

「サイコロのつくも神」というのがおもしろいなあ~と思った。

こわい話かなと思っていたけど、おもしろい話だった。乙音が小さくてかわいい。

最後は朱丸のつのも、とりもどせてよかった。

黄金の山を前にしても、乙音の方がいいと思った源太は、仲間が大好きないい人だなと思いました。

ちょっとこわかった。